

注目集める石鎚山系 UFOラインなど起爆剤に

高知県と愛媛県境に連なる石鎚山系。西日本最高峰の石鎚山（1982メートル）に代表される山岳エリアが今、少しだけ熱い。登山客だけではない。町道から眼下に広がる山々を楽しむアマチュアカメラマンらが大勢やってくる。観光客受け入れの拠点となる宿泊施設も4月にリニューアルオープンし、地元にとっては、新型コロナウイルスの影響で落ち込む観光産業復興の目玉として大きな期待がかかっている。

山頂近くまで車で行けるなど比較的登りやすい地形もあり、石鎚山系はかねてより登山客からは人気だった。その人気は登山客以外にも広がったきっかけは2018年。石鎚山系の尾根沿いを走り、絶景が広がる高知県の町の町道「瓶ヶ森・瓶ヶ森西線」が自動車メーカーのCMの舞台になったことだった。

雄大な景色の尾根という意味の「雄峰」、加えて未確認飛行物体の目撃情報もあることから「UFOライン」という愛称で親しまれている町道。人気俳優、菅田将暉を起用したCMの撮影場所になり、テレビで流れるようになって以降は知名度が一気に上昇。県内外から観光客が押し寄せるようになった。

19年には石鎚山系を生かした観光振興に取り組もうと、いの町や愛媛県西条市など両県の4自治体が共同出資して株式会社「ソラヤマいしづち」を設立。登山やキャンプといったツアーの企画・販売や、地域資源を生かした起業などを目指す人材を育成する講座も開いている。

一方で、長年の課題だったのが地元へ金が落ちる仕組みづくり。その課題解消の一つとして、老朽化に伴い17年から休業していたUFOライン沿いの「山荘しらす」が、今年4月にリニューアルオープンした。6棟のロッジや宿泊客以外も利用できるレストランを完備。町は「山岳観光の拠点になればうれしい」と期待する。

住民が「ここ数年で一気に動きだした」と話す山岳観光。冬山の活用方法など、今後も官民一体となった模索は続きそうだ。

高知新聞社 土佐支局長 山崎友裕



写真は山荘しらすとUFOライン

